テレビ放映と外食企業の株価の関係（2011 年 10 月 15 日）

最近、外食企業の株価がテレビ放映によって影響を受けるケースが見受けられる。

そこで今回は、外食企業のテレビ放映と株価の関係を調べて、どんなタイミングで投資するべきかを考えてみた。

またその結果、現時点で●●●の株価が極めて面白い位置づけにあることが分かった。

まず、トリドール（3397）のケースで考えてみる。

発端はこの記事。
トリドールから案内が来て、ブログに記事にした。掲載日は 5 月 30 日。

トリドール（3397）：テレビ放映のご案内
http://ameblo.jp/halariga/entry-10907689589.html
（見る必要はありません。記事は下にあります。）

＊＊＊＊＊＊＊＊ここから＊＊＊＊＊＊＊＊

トリドール（3397）のうどん店、「丸亀製麺」の TV 放映のご案内です。

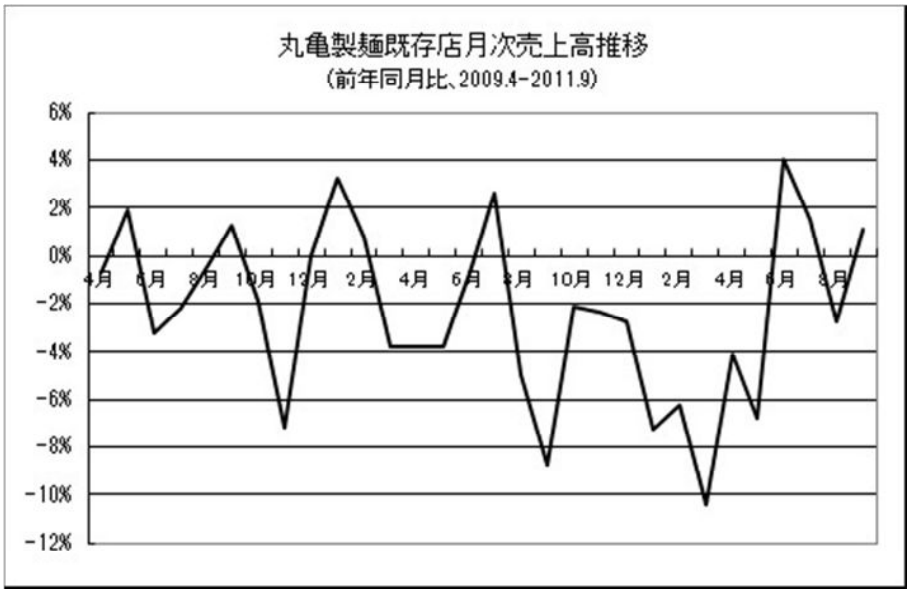
番組名　：TV 朝日　シルシルミシルさんデー

放映日　：６月５日（日）　18:56～

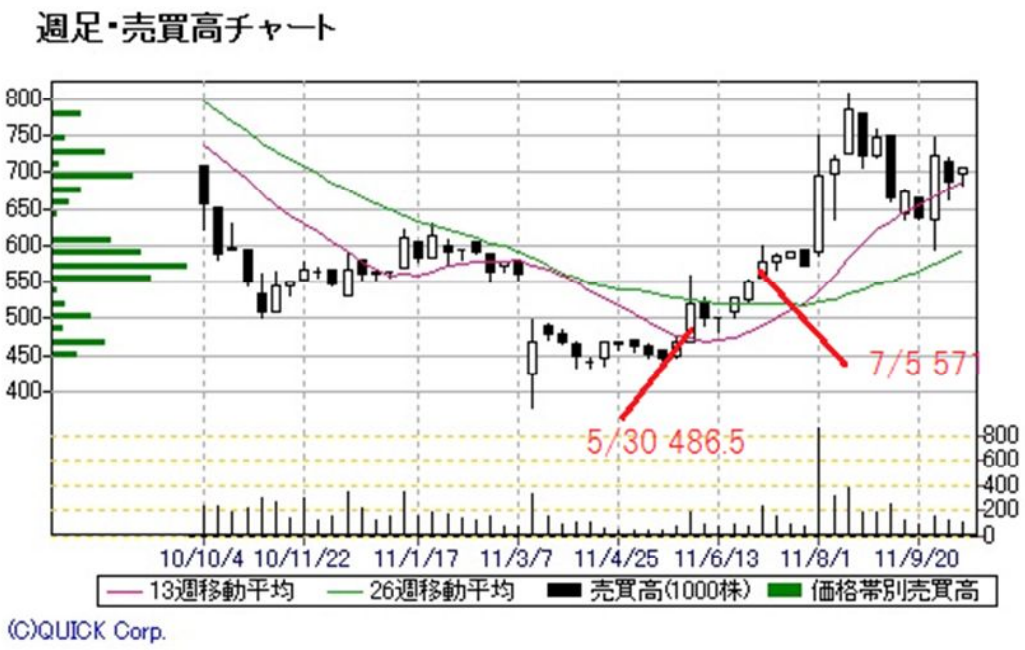
だそうです。
これまでも何度かテレビには取り上げられていますが、全国ネットのゴールデンタイムは初めてです。
2 年前の王将、サイゼリヤのようになるといいですね。

＊＊＊＊＊＊＊＊ここまで＊＊＊＊＊＊＊＊

そして、その結果 7 月 5 日に発表された 6 月の既存店は 4.0%増とかつてない水準になった。



その間の株価の動きを見ると、テレビ放映があるぞというアナウンスで多少上昇した後、実際の放映をはさんで株価は下がっている。しかし、6 月の月次が発表されるまで再び上昇し、月次発表で若干調整という動きとなった。



この辺りは株価の特性というものが良く表れていて、非常に面白い。つまり、材料に反応して株価が動くが、短期筋なのですぐ売ってくる。そんな場合でもバックグラウンドを押さえて投資すると、短期的に株価に振らされても我慢できる。しかし、単にテレビ放映と

か、月次が良かったとかで飛びついた人は、株価が下がって慌てて売って損をすることになる。

この場合のバックグランドとはどういうことか、下の業績表で説明しよう。ただし、5 月 30 日、7 月 5 日時点ではまだ第 1 四半期は発表されていない。

決算期		売上高	伸率	営業利益	伸率	税前利益	伸率	純利益	伸率
非連結,連結)		百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2010/9中間	実績	23,829	30.2	2,797	13.7	2,675	10.8	1,112	-5.8
2011/3下	実績	25,006	21.2	1,965	-16.9	1,892	-18.1	907	-16.0
2011/9中間	会社予初	29,300	23.0	2,770	-1.0	2,610	-2.4	1,160	4.3
2012/3下	会社予初	30,900	23.6	2,920	48.6	2,760	45.9	1,120	23.5
2008/3期	実績	16,544	52.0	1,448	49.6	1,385	44.0	590	16.6
2009/3期	実績	24,519	48.2	2,830	95.4	2,707	95.5	1,351	129.0
2010/3期	実績	38,929	58.8	4,823	70.4	4,724	74.5	2,260	67.3
2011/3期	実績	48,835	25.4	4,762	-1.3	4,567	-3.3	2,019	-10.7
2012/3期	会社予想初	60,200	23.3	5,690	19.5	5,370	17.6	2,280	12.9
2009-1Q	実績(3カ月)	8,335	62.0	1,106	81.0	1,089	80.3	519	68.5
2009-2Q	実績(3カ月)	9,963	69.0	1,353	90.6	1,325	89.0	661	121.1
2009-3Q	実績(3カ月)	10,086	57.6	1,107	66.5	1,098	78.0	560	76.7
2009-4Q	実績(3カ月)	10,545	49.0	1,257	48.9	1,212	54.4	520	21.8
2010-1Q	実績(3カ月)	11,306	35.6	1,262	14.1	1,193	9.6	407	-21.6
2010-2Q	実績(3カ月)	12,523	25.7	1,535	13.5	1,482	11.8	705	6.7
2010-3Q	実績(3カ月)	12,605	25.0	954	-13.8	921	-16.1	423	-24.5
2010-4Q	実績(3カ月)	12,401	17.6	1,011	-19.6	971	-19.9	484	-6.9
2011-1Q	実績(3カ月)	14,170	25.3	1,716	36.0	1,644	37.8	823	102.2
2011-2Q	会予(3カ月)	15,130	20.8	1,054	-31.3	966	-34.8	337	-52.2

第 1 のポイントは、2010-3Q、4Q と二ケタの減益となっていることだ。そのため、株価も大きく調整した後であった。

そして、6 月の月次が出てみると、6 月までの全社売上高の伸びが 25.3%になっていた。つまり 2010-3Q 並みまで回復しているのであり、上期計画の 23.0%増を上回っていた。これは減益基調が転換する可能性を示唆するものである。

それゆえ、6 月の月次が発表されて若干株価がもんだ後、決算発表まで上昇し、決算発表でさらに上昇したのである。

しかも、決算発表時には、発表後に株価上昇に弾みがついている。これは何と言っても第 1 四半期の営業利益が 36.0%増えたことが大きい。それまで株価がほぼ横ばいで、行き過ぎ感もなく、36.0%増がサプライズだったのである。もちろん、私も含めてそれは予想できるものではない。

さて、トリドールの株価が月次を根拠に上昇したことを見たが、そのイメージに重なり、条件もぴったり一致する銘柄がある。それが●●●である。

まずは、バックグラウンドからチェックしよう。株価は、トリドール同様大きく調整している。

（途中省略）

以上から考えて、現時点で●●●に投資することは極めてリーゾナブルな投資ではないかと考えられる。

以上でレポートは終わりです。

さて、ここからは当 H&L 企業研究クラブの主旨である、銘柄を自分で見つける力をつけることについて話すことにしよう。

今回のレポートは特に説明しやすいということもあって、銘柄選定の思考過程も含めてレポートにしたものである。

つまり、メルマガで述べていることの種明かしということである。メルマガではたった数行のことではあるが、実はこんなことを考えているのである。だから銘柄が当たるのである。ここまでわかると株も面白くなる。

今後も機会があれば、このようなレポートを作成しようと思う。感想を聞かせてもらえたらありがたい。

ポイントとしてはまず、過去の事例に当てはめて考えるということである。株価は将来を予測するものと思っている人も多いが、将来は予測しても当たらないのである。むしろ、過去にあったことが繰り返されることが多いので、過去の中から類似点を探すのがいいだろう。

そのためには株式投資において経験したことひとつずつの現象を記憶しておくことが重要である。しかし、記憶はあいまいなので、しばしば記録することをお奨めする。たとえば、ブログなどに記録しておくことも一つの手である。

今回結論として、●●●の買いを取り上げた。自分でも結構自信はある。しかし、ここまでやっても絶対はないんだということを覚悟しておく必要もある。株式投資の世界は思いもかけないことが良く起こるので、徹底しても信じ込まないことが結構大事である。

なお、ここでは銘柄の業績表をいくつか使った。「中級編」には業績表のフォーマットがあり、作り方も解説しているので、使い方に慣れてもらいたい。最終的には自分で業績表を作ることが大切である。そうするともらった業績表ではわからないことが見えてきたりするものだからだ。ただし、いきなりいくつも作るのは大変なので、レポートなどに業績表がある銘柄であれば、請求してもらえば差し上げます。